

4. 総合計画の推進にあたって

4 総合計画の推進にあたって

<重点化施策>

(1) 市民協働

現状と課題

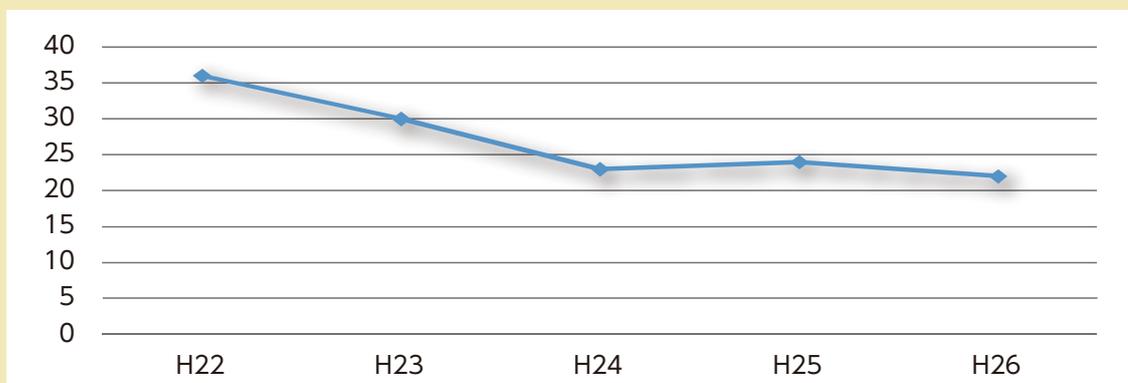
熱海市の人口は、この10年間で約4,000人減少しているとともに、高齢化率については平成27年4月現在において43.5%と高い状況です。近年の社会動態では増えている側面はありますが、高齢者が転入し若年層が転出していることから、少子高齢化が今後さらに進むことが予想されます。少子高齢化や核家族化が進むことにより、子育てに悩みを抱える親の増加や、買い物などの日常生活に支障をきたす人が増加するとともに、地域においては防犯や防災面での不安など、その抱える課題は多様化しています。

また、行政においては行政改革の推進による職員数の減少や、財政面では、人口減少や高齢化に伴う社会保障費の増加、老朽化した公共施設の更新費用の増加などによる歳出の増加により、社会構造の変化に対する課題について行政だけで対応していくことが難しくなっています。

そのようなことから、市民、町内会、NPO・ボランティア団体、企業と行政が連携を深めながら、地域課題の解決に取り組み、地域の活性化や賑わいづくりに繋げていく必要があります。



NPO・ボランティア団体支援ルーム登録数



資料：協働環境課

施策の方向

- ◇ 子育て、高齢者の見守り、防災、防犯に対して地域で支えあう意識を醸成します。
- ◇ 町内会、NPO、ボランティア団体が活動しやすい環境づくりを推進するとともに、コミュニティ間の連携を促進します。
- ◇ NPO やボランティア団体に対し、活動拠点の提供など、活動しやすい環境づくりを進めます。
- ◇ ボランティア活動を始めたい人に情報提供を行います。
- ◇ 地域における問題を自分達で解決できるよう担い手を育成します。
- ◇ 企業が協働しやすい環境づくりに努めます。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
*共助（解説P.93）意識の醸成	<input type="checkbox"/> 共助意識の醸成のための教育、講座の実施
市民協働の人材育成	<input type="checkbox"/> 協働事業（委託等）を拡大するための受け手となる町内会、NPO、ボランティア団体の活動支援
広報・PRの強化	<input type="checkbox"/> NPO、ボランティア団体支援事業
住民等によるまちづくりの推進	<input type="checkbox"/> *公募型協働事業提案制度（解説P.92）事業
企業との協働事業の推進	<input type="checkbox"/> *まちづくりファンド（解説P.96）事業の検討

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
【再掲】NPO・ボランティア団体支援ルーム登録数	22 (年度末)	30

＜重点化施策＞

(2) 広域行政

現状と課題

本市を含む伊豆半島は人口減少や景気の低迷、宿泊者数の減少など課題がある中で、地域間の繋がりは弱く独自性が強い地域になっています。市町それぞれが輝きながら、全体または部分的に連携し、魅力を発信していくことが伊豆半島の発展には不可欠です。

平成27年4月、伊豆は一つを合言葉に13市町（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町）が連携し「*美しい伊豆創造センター（解説P.91）」を設立しました。

伊豆半島の魅力を最大限発信していくには、行政、民間企業、NPOや住民等が一体となって戦略を推進していく必要があります。

また、地方分権の進展や市民の多様なニーズなどを効率的・効果的に対応するためには、広域的な視点から取り組む必要があります。現在、当市では、近隣自治体（函南町、湯河原町、箱根町）や富士箱根伊豆交流圏（静岡県東部地域、神奈川県西部地域及び山梨県東部地域）と連携し、観光、交通インフラの整備、環境美化などの課題解決に取り組んでいますが、今後とも連携・協力して取り組んでいく必要があります。



施策の方向

- ◇ 伊豆半島における誘客促進事業や、世界 * ジオパーク（解説 P.93）認定など「美しい伊豆創造センター」の取り組みを支援します。
- ◇ 広域組織を構成する市町との連携を強化し、広域的処理が望ましい事務・事業については、行政の効率化を図るため、関係市町と連携を図ります。
- ◇ 生活圏の拡大に応じた施設の相互利用など広域的な行政サービスについて、関係市町と共同で推進するとともに、更なる調査・研究を進めます。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
美しい伊豆創造センターの取り組み支援	<input type="checkbox"/> *ふじのくに伊豆デスティネーションキャンペーン（解説P.95）の取り組み支援 <input type="checkbox"/> 伊豆半島ジオパークの推進
広域連携体制の充実・強化	<input type="checkbox"/> 周辺市町との観光客誘客協力事業 <input type="checkbox"/> 災害時等における相互協力事業 <input type="checkbox"/> 【再掲】*伊豆湘南道路（解説P.91）の要望活動 <input type="checkbox"/> 【再掲】*伊豆縦貫自動車道（解説P.91）の要望活動
広域的行政サービスの向上	<input type="checkbox"/> 広域連携市町における施設相互利用の促進

評価指標と目標値

指 標	現 状	最終目標
13市町の観光交流客数	4,182万人	4,700万人

<重点化施策>

(3) 行財政運営

現状と課題

全国的に人口減少時代の到来を迎える中、本市の人口も昭和40年代から一貫して減少し続けており、今後も減少が想定されています。また、高齢化も若年層の転出に伴い進展しており、市税の減少や

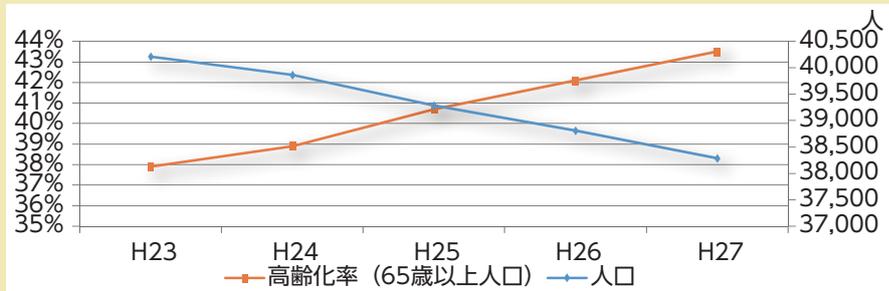


社会保障関係費の増加が懸念されます。安定した財政運営のために自主財源の確保と「選択と集中」による行政サービスの効率的かつ効果的な運用が求められています。

誰もが多様な情報を得ることができる情報通信環境が整備されたことで、市民の価値観や生活スタイルも変化し、行政へのニーズも高度化・複雑化しています。均一・画一的な行政サービスの提供を見直し、個々のニーズを的確に把握することが求められています。

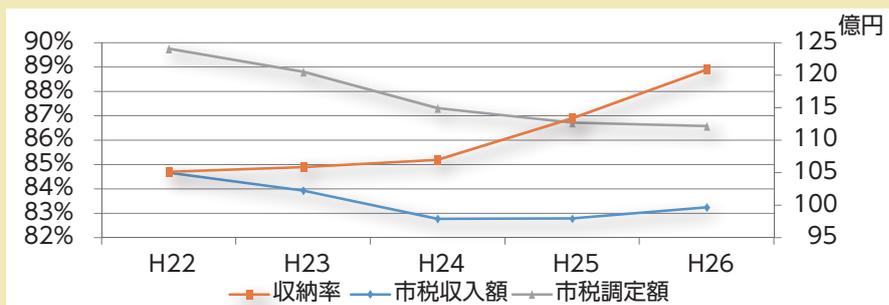
人口増加や経済成長に合わせて建築された多くの施設が老朽化し、順次更新の時期を迎えます。人口と税収の減少が見込まれる中、将来にわたり持続的に運営可能な施設としなければなりません。そのためにも施設の再編や老朽化対策に取り組む必要があります。

人口と高齢化率



資料：静岡県の高齢者の人口と世帯

市税と収納率



資料：市税の概要

施策の方向

- ◇ 第四次熱海市総合計画後期基本計画の進捗管理できる指標を設定し、取り組みを検証します。
- ◇ 市の政策・施策を計画的に実行するために健全な財政運営を維持します。
- ◇ 財政基盤の安定を図るため、受益と負担の適正化等による歳入を確保します。
- ◇ 市全体でコスト意識を持ち、事務事業や補助金の見直しなどによる歳出を抑制します。
- ◇ 市民目線で考え、行動できる職員を育成します。
- ◇ 多様化・高度化した市民ニーズに柔軟に対応するための組織づくりを行います。
- ◇ 経費の削減や市民サービスの向上が図れるものについて、資金やノウハウなど、民間活力のさらなる活用を推進します。
- ◇ 総量の管理・運営費用の合理化・サービス向上の観点から、公共施設の見直しを行います。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
*PDCAサイクル（解説P.90）の確立	<input type="checkbox"/> 総合計画進捗状況の管理・検証
適正な財政運営の維持	<input type="checkbox"/> 事業の再編・統廃合 <input type="checkbox"/> 市税等の収納対策 <input type="checkbox"/> 使用料・手数料等の適正化 <input type="checkbox"/> 民間*アウトソーシング（解説P.90）の取り組み推進
人材の育成と活性化	<input type="checkbox"/> [*人材育成ビジョン（解説P.94）]に基づく職員研修 <input type="checkbox"/> *人事評価制度（解説P.94）の段階的導入
市民ニーズに対応する組織づくり	<input type="checkbox"/> [*第五次定員適正化計画（解説P.94）]の策定及び推進 <input type="checkbox"/> 行政組織の横断的な連携強化
*公共施設マネジメント（解説P.92）の推進	<input type="checkbox"/> 公共施設等総合管理計画の策定と適正な維持管理

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
市税の収納率	88.9%	91.0%
総合計画後期基本計画進捗状況	—	100%